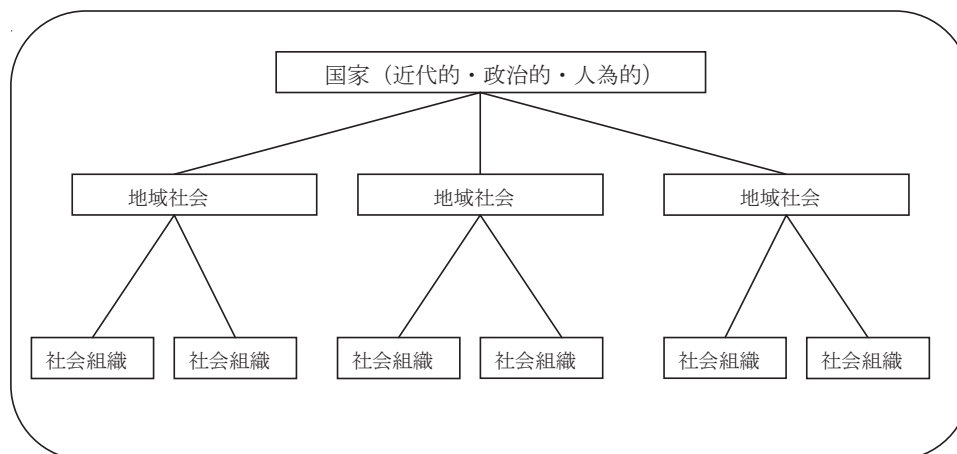


複合社会と多元文化

高明潔
(愛知大学)

1. 現代中国における複合社会の構図

現代中国における「複合社会(plural societies, composite, societies)・多民族国家」の構図は下図のように考えられる。



地域社会の中には漢民族社会と少数民族社会を包括している。歴史上の同一文化を持つ漢民族地域が後主体社会として、今日の中国を構成する主体部分＝マジョリティとなっている。少数社会では歴史上において時には漢民族の中央王朝と直接な関係を結成し、時には独自の存在を保持してきて、中には、原初の国（王権機能をもつ社会）をもつ民族、政治的な独立を講ずる少数民族社会もあれば、国無き酋長・長老機能をもつ少数民族社会もあった。いずれの少数民族においても後漢民族社会に対し、少数民族＝マイノリティとなっている。

また、漢民族社会と少数民族社会のいずれにおいても、それを構成する基礎単位としての社会組織は、その民族が持つ原始的・伝統的な文化を引き継いできたもっとも重要な担い手である。この部分でさえ変容が起きなければ、相対化された伝統文化の変容もできないといえる。

現代中国における複合社会の特徴として、第一に、周辺社会を基盤として形成された今日の中国には、地域ごとに複数の異なる文化ルートに分かれた出自や人種、言語、宗教その他文化の諸面で異なる民族集団がある。第二に、これらの異なる民族集団が、単一制という政治体制をとっている国家全体の一部分として、イデオロギー的・階級的に同一社会

＝国内に構築化されている、というような特徴を持っている。

2. 複合社会における「文化」の解釈

このような複合的な構築を持つ中国では、「文化」は何であろうか、文化を構成する要素はどのものであろうか、誰によってどのような言語を用いてそれを解釈すべきか、どのような領域・分野においてどのような用語を用いて文化を定義すべきか、工業文明の解釈それともポストモダニズム (postmodernism) 的な解釈によって文化を定義すべきか、それとも相対化された発展途上国の解釈や伝統・未開社会における土着的な解釈でそれを定義すべきか、すなわち「文化」に対する解釈体系を再検討しなければならない課題が数多く残されている。

さまざまな領域・分野の用語で定義された文化の枠組みに制限させず、いわゆる「文化」を複合社会である現代中国の枠組みの中において、その構成要素を検討してみると、実際「文化」は「選択」の過程で決定されるものであるといえる。

文化は物質的なものと精神的なものからなる「形態」になっている。世界レベルのさまざまな民族集団をはじめ、中国においてもどんな規模の「民族 nationality; Nation」 或いは「少数民族集団 ethnic group (族体)」であっても、その規模を問わず皆特有な文化＝伝統文化をもつことは言うまでもない。その特有な文化を世代から世代へと絶えず引き継ぐのはその文化を有する民族や族体の人々である。中国という国家の枠組み中での少数民族社会の場合、国家政治に取り込まれることによって、とりわけ時代の進展につれて、伝統文化の変容を免れることはできない。どのようにして国家政治に対応し、それを自民族社会に取り込んでいって、同時に伝統文化を引き継ぎ保持していくのか、「選択」の道を取るしかない。

3. 複合社会における文化への二重的な「選択」

中国の多元文化は、主体文化である「漢文化」とサブ文化である「少数民族文化」から形成されている。いずれも不変的・静的なものになれず、いずれにおいても自発的に伝統文化を引き継ぐケースと捨てられなければならないケースがある。引き継ぎと捨象プロセスのなかには、「自然的選択」と「現実的選択」という二種類の選択がある。

自然的選択は「原始的要因 (primordialities)」を基盤として形成されたアイデンティティを指す。その中に共通的な出自・言語・宗教、共通的な地域における共通的な生業・生活スタイル・価値観などの要素を包括する。これは各民族集団の伝統文化を生成させ、それをこれまで維持させてきたもっとも重要な要因である。グローバル時代に直面している中国語＝漢語の維持と拡大、少数民族言語文字の維持・民族の族籍への選択など、さらにはこれを根源としたナショナルリズムでさえ、この自然的な選択に左右されるといえる。

現実的選択は、自然的選択が国家政治や環境の変化であるのに対し、現実の必要に対する一種の対応である。漢民族をはじめ少数民族集団における言語選択（漢民族少数民族に

伴う英語への選択、少数民族の漢語への選択、ムスリム民族のアラビア語への選択、自民族言語への選択と維持など）・日常生活スタイルへの選択（とりわけ消費文化や通俗文化におけるTシャツやジーンズ・ハンバーガ・ポップスやロック音楽などは代表的例になる）または、民族の族籍の変更や国籍の変更なども現実的な選択によるものである。

しがしながら、現実的選択は必ずしも無原則的な選択であるとは限らない。すなわち、「a」と「b」という二つ文化に対して、ある民族が「a」を選択し、ある民族は「b」を選択したのは、いずれも無原則的に「選択」するわけではない。その選択はあくまでも自然的選択に関わるといえる。これについて、回族とモンゴル族に関する実証調査をもとに例をみておく。

981万人あまりの人口を有する回族は、中国本土で形成された外来ムスリムを主体とするムスリム民族集団である。7世紀から中国本土に入り始めた異教徒として、彼らが中国本土で根付くために、現実的に漢語を選択し、歴史の流れの中でついに「回族＝漢語を操るムスリム」となっている。21世紀の現在、回族はすでにイスラーム世界のムスリムのようにアラビア語などを操ることがなくなるが、モスクを中心とした宗教コミュニティ・宗教儀式・メッカ巡礼とその憧れ・相次ぐ宗教機能者の育成・モスク経典教育・アラビア学校の成立などの事例は、回族の社会を貫いているムスリムという意識、すなわち彼らの生活のすべてにおいてイスラームに従うという原点を放棄していないことを明らかに示している。漢語を選択したことは必ずしも回族とその祖先が無原則的に彼らを支える原始的な要因であるイスラームを無原則的に放棄する訳ではなく、むしろ漢語を借用した上、「中国イスラーム」という信仰を形づくっている。

モンゴル族の例を見ておくと、近年以来、内モンゴル牧畜社会における行政的な組織や区画の名称が漢文化的に変更されたケースが現れてきた。それは「漢化された」とか「早晚漢文化社会に飲み込まれる」と推論されるかもしれない。しがしながら、内モンゴル牧畜地域におけるこれまで引き継いできた「牧畜文明」という中身が変えられない限りでは、すでに清時代から用いられた満州族の一級組織を示す「ソム」という名称、1950年代から用いられた時代における政治と行政の意味を含んだ「人民公社」という名称、市場経済化時代以来用いられた漢民族の町を示す「市」や「鎮」という名称が、いくら内モンゴルの区画にそれぞれ名づけられていても、わずか200万人（中国全体のモンゴル族は480万人あまりと統計される）あまりにすぎないモンゴル族の遊牧民に維持された牧畜生業が、すでに消えてしまったというわけではない。むしろ、国家政策を活用し、漢文化を借用しそれを基盤として「牧畜文明」を維持しているといえる。牧畜民の話しでは「外来文化を使って我々の文化を保護する」ということである。これも無原則的に外来文化を選択する訳ではなく、いくら現実的に選択していても自然生態・人間・家畜間関係を調和するために生み出された「牧畜文明体系」という原点から脱げ出せない選択であろう。

4. 複合社会における「多元文化」の課題

複合社会としての現代中国にとって、文化は二重的な選択によって構成されている。これによって主体文化＝漢文化、サブ文化＝少数民族文化、外来文化＝外国側の文化などを包括する「多元文化」を形成する。このような構成について以下のような課題を検討しておきたい。

いずれの文化においても「文化」と定義できる。しがしながら、「文化」、特に「自然的（原始的）選択」への認識と解釈は果たして同等的であろうか。一つは、中国本土における「多元文化」の「文化」へのネイティブ的な解釈＝原始的な選択への解釈は、果たして欧米側の認識論支配 epistemological dominance と同等的な解釈力を持つのであろうか；もう一つは、複合社会である中国における政治ならびに漢文化的に解釈されている「多元文化」の文化に対して、少数民族ネイティブの解釈＝原始的な選択はそれと同等的な解釈力をもつのであろうか、という課題である。

言語を例として、英語ができず欧米の文化に馴染めない存在が劣等視されると同様に、少数民族に対して作り出された「優遇政策」というのは、文化が同様の解釈力を持たないと位置づけられるものと考えられる。すなわち、とりわけ原始的な選択を重視せずに行った政策のもとで果たして同等的な「多元文化」が生み出せるのであるか。

また、回族とモンゴル族の例のように、現実的選択においても、言語や生活スタイルなどの自然的選択において変容が起きていても、必ずしも原始的な選択を放棄する訳はない。このことが中国には56の民族がいる結果となっており、さまざまなレベルのナショナルリズムを生み出す重要な要因となっている。

すべての「文化」が同等的な文化解釈力をもつのが理想的であるが、その文化に対する自然的な選択も、現実的な選択も、いずれにしてもこれらの選択プロセスに対する政治操作に遭遇することになる。1990年代から次第に生み出された「多元文化」という環境は、中国政治が採用した開放的な政策によって左右される。より一層合理的な「中国式の多元文化」を構築していくことが、今後の中国政治の課題となるといえよう。